

1 研究テーマ

児童が互いに関わり合いながら主体的に取り組む学習指導の工夫
～学習意欲を高める授業展開のあり方～

2 はじめに

21世紀を生き抜くための力を育成するため、これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の形成を重視していかなければならない。そして、これらを身につけさせるためには、多様な言語活動に加えて、協働的な学習活動を工夫することが必要となっている。

3 研究目的

所属校では、各種意識調査の結果から、算数の学習に対して自信がなかったり、苦手意識を持っていたりする児童が少なくないことが分かった。そこで、算数科の実践を通して、学習意欲の向上と学習に対する主体性を育てていくことを研究テーマとし、その具現化に向け、以下の視点を設定した。

視点① 関わり合いによる協働的な課題解決

授業展開の中に、児童が2～4人で関わり合いながら協働的に課題解決する場を位置づける。

視点② 見通しを持った授業展開の工夫

「自分の言葉で分かったことを説明することをねらいとして、児童が見通しを持って主体的に学習しやすい授業展開を工夫する。」

4 研究内容

(1) 視点①について

視点① 関わり合いによる協働的な課題解決

●それぞれ自分の考えを持ち寄って、2～4人で話し合う

内容

新しい考えを作り出す

考えを修正する、深める

解決の糸口を見つける

関わり方

- ・考えていることを分かっている範囲で言葉にしてみる
- ・友だちの話で分からないことは、すぐに、納得するまで質問する
- ・お互いの相違点を考えながら聞く
- ・一人で困っている人には「どこまで考えた？」と声をかける

分かってもらえんとすっきりする！

みんなで話し合うとよく分かる！

難しい問題でも解決できる！

◆ 関わり合いの例 (6年 「比とその利用」 第5時 録音データより)

7月8日 $\frac{2}{3} : \frac{3}{4}$ を簡単な比に

AとBは、両項に分数を整数にできる数をかければできるのではないかとの見通しで、いろいろ試してみる。Cは、二人のやっていることが分からず、BがCに働きかける。

C B、こどうなった？

B 3だ。ちがう6だ。

A ここに何かをかける。

B ああ、そういうことか。ここで両方同じ数をかけて、分母とかけた数が約分できるようにする。で、3/4も1にならんといいんし。

B 12だ。9と8。9:8。で、こっちが 8:9だ。

C え、なんでなんで？ どういうこと？

B だけん、両方に、2/3と3/4に同じ数。約分できる最大・・・最小公倍数。3でもだめ、6でもだめだけん。

A 12だ。

B だけん、12でしょ。だけん8:9。

A こっちでやった方が速い。四三12で、3でも4でも割れるけん。

B Cも分かった？ 聞いていよ。(しばらくCにノートを書くよう促す) だけん、2/3を戻すには、整数に戻すには？ 12に3/4をかけて・・・ここに、3と4で最小？

C 最小公倍数。

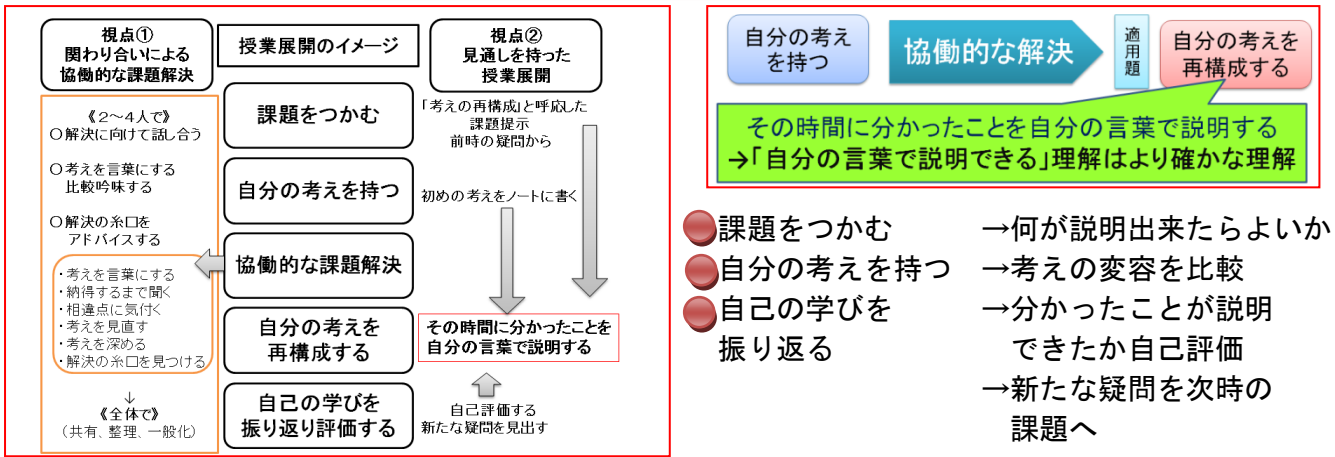
B じゃないといけん。

C ああ、ああ。できた。

- ・分からないことをすぐに質問することで、お互いの考えが深まってきている。
- ・協働的な解決を経て、個々の考えが明確になり、考えを抽象化している。

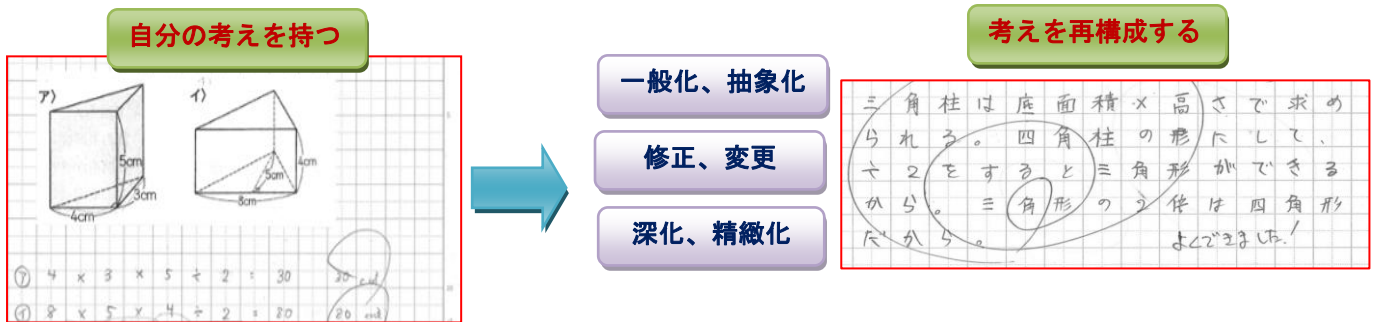
(2) 視点②について

視点② 見通しを持った授業展開の工夫



「分かったことが自分の言葉で説明できる」理解は単に「問題が解ける」理解より、確かな理解

◆ 考えを再構成した例 (6年 「立体の体積」第2時のノートより)
(三角柱の体積の求め方について)



・「自分の考えを持つ」段階では直方体の体積を半分にする事で、三角柱の体積を求め方を考えた。「考えを再構成する」段階では、「底面積×高さ＝体積」の公式が三角柱でも使えると考えを一般化、抽象化しようとしている。

5 研究のまとめ

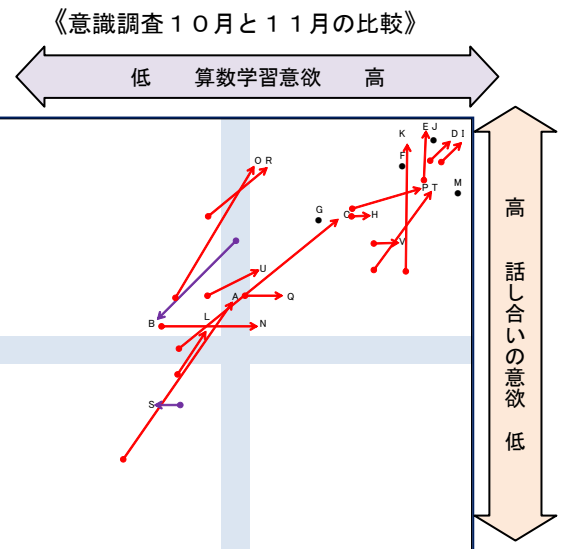
見通しを持って授業に臨み(視点②)、互いの考えを持ち寄り、関わり合って新しい知識や技能を作り出していく授業展開の工夫(視点①)は、学習意欲の向上や学習への主体的な態度の育成に一定の効果があった。また、これらの取組は学習内容の定着と、教科の授業を通した学級の仲間意識の構築につながることも期待できる。

6 今後の課題

- 児童の意欲を喚起し、主体的な学びが連続していくような課題の設定についてこれからも追究していきたい。
- 他の教科でも「関わり合って学ぶ」「分かったことを自分の言葉で説明する」取組を実践していきたい。
- 授業のゴールをイメージして授業を構成したい。

7 おわりに

児童の関わり合いの様子を録音し、分析することで、児童の視点から自分の授業を観察できたことは貴重な経験になった。児童が関わり合いの中で学習そのものを楽しみ、理解を深め、学習意欲を高めていく授業を目指し、実践を通してさらに研鑽に励んでいきたい。



上の図は後期の授業実践前と、実践後の意識調査の個人の集計を座標化したものである。A、B、Cなどは児童を表している。矢印の始点が実践前、終点が実践後の位置である。赤い矢印は意欲が向上した児童である。この座標から多くの児童に学習意欲の向上が見られたことが分かる。